

ロジスティクス環境会議
第4回源流管理による環境改善委員会 議事録

・日 時：2004年5月14日（金） 15：00～17：00

・場 所：東京・千代田区 東海大学交友会館 朝日の間

・出席者：31名

・議 案：

- 1) マニュアルの編集方針について
- 2) マニュアル作成の役割分担と分科会構成について
- 3) スケジュールについて

・開 会

定刻、小西委員長により、開会が宣された。

・議事の経過

1. 議 事

小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) マニュアルの編集方針について【資料1-1、1-2、1-3、1-4】

資料1-1に基づき、森川委員より、これまでの検討経緯、マニュアル作成の考え方およびマニュアルの構成としては、【図表：源流管理マニュアルの階層構造イメージ】のとおり作成していきたい旨の編集方針について説明がなされた。引続き、前回の第3回委員会にてマニュアルの例示作成をお願いしていた、ポッカコーポレーションの伊藤委員（資料1-2）、明治乳業の新堀委員（資料1-3）、佐川急便の須賀委員（資料1-4）より、例示の説明がなされた後、編集方針（案）について、全会一致にて承認がなされた。

2) マニュアル作成の役割分担と分科会構成について【資料2】

資料2に基づき、事務局より、マニュアル作成にあたり、具体的な検討を進めていくにあたり、委員会全体で議論することが難しいため、グループ（分科会）を構成したい旨の提案が行われた。また、グループの枠組みについては、物流機能毎（包装 輸送 保管・荷役・流通加工）に構成し、各メンバーに参画していただきたい旨の提案が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

【委 員】包装、輸送等の物流機能で分科会を構成することに異論はないが、包装材削減によって輸送効率の低下を招く等のトレードオフの関係になることは課題としてあげておくべきではないか。

- 【委員】時間、コスト、環境負荷の関係で、落としどころをどこに持っていきかが難しい問題である。また、マニュアルの項目にもある定量化については、ここでは効果測定という表現の方が適切ではないか。効果測定の方法の一つとして、定量化がある。
- 【委員】トレードオフについては、その問題をどのように関係者で調整したのかという記述があるとより役に立つものになるのではないか。
- 【委員】国策である京都議定書に連動して、まずはCO₂を低減するという課題を認識することが重要ではないか。そのうえで、環境負荷を低減する施策の事例がアウトプットとして当委員会から出てくれば良いのではないか。その事例を踏まえて、考え方としてマニュアルが整備できれば大きな成果になるのではないか。
- 【委員】省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容と重複する部分が多いのではないか。
- 【委員長】省資源ロジスティクス推進委員会のポイントは、共同物流等の企業間における取組みやインフラの部分であり、当委員会では、例えば共同物流を上手く推進するために、各企業でどのようなことをやるべきなのか、というように個別企業で対応が可能な範囲に焦点を当てている。重なる部分が出てくるとは思われるが、環境会議として漏れの無いようにすることが重要ではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、以下のとおり分科会を構成することが確認された。

包装分科会

輸送分科会

荷役・保管・流通加工分科会

各分科会の開催については、当委員会全メンバーを出席対象とし、同じ日時に会場内で分科会メンバー毎に分かれて議論していただく。

また、次回委員会までに、各自が属する分科会のテーマ（包装、輸送等）毎に管理項目について、LEMSマニュアル等を参照いただきながら洗い出しをしていただくことが確認された。

管理項目から、【資料1 - 1、4頁】の記載例をご参考いただき、「施策」「課題」等まで記載いただいても結構です。

3) スケジュールについて【資料3】

資料3に基づき、事務局より、今後のスケジュールについて説明が行われた後、全会一致にて了承された。詳細日程については、以下のとおり開催することが確認された。

第5回委員会・・・2004年6月9日（水）

第6回委員会・・・2004年7月7日（水）

上記委員会の中で、分科会を開催いたします。

会場：未定（決まり次第、ご連絡いたします）

閉会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以上